

カトリック六甲教会訪問

日時：2012年5月12日(土) 14:30～15:30

実施場所：カトリック六甲教会

対象者：小学校低学年中心の児童(約40名)

活動担当者：[4回生]石田このみ、河野里沙、永島寛明、中野堅太 [3回生]島田千尋、津田一樹

目的：フィールド活動の報告を行うため・途上国の貧困の現状を伝えるため

テーマ：私たちが当たり前だと思っていることが当たり前ではない生活について考えよう

活動内容：

- ・活動報告、国際理解教育のためのプレゼンテーション
- ・ワークショップの実施

[タイムスケジュール]

14:30-14:35 自己紹介

14:35-14:45 導入：フィリピンについて

14:45-15:05 メインレクチャー：ゴミ山生活者・ストリートチルドレンについて

15:05-15:10 ムービー上映

15:10-15:30 メッセージカード作り

私たちは、①フィリピンのゴミ山に生活する同世代の子どもやストリートチルドレンの生活、②日本の生活とフィリピンのごみ山での生活との違い、③寄付していただいた靴をどのように使わせていただいたのか、の3点について、写真やPowerPoint等を用いながら説明しました。最後に、大切な人へ感謝の気持ちを伝えてもらうため、メッセージカードを参加者の皆さんと一緒に作成しました。

担当者の感想：

私たちの活動を支援してくださっているカトリック六甲教会様に、Bridge for Children, KGU がフィリピンでどのような活動を行ったのかを報告させていただく機会をいただくことができよかったです。参加者の小学生の子どもたちにフィリピンのことを知ってもらおうとクイズをしましたが、国旗を見ただけで「フィリピンだ!」と多くの子どもたちが回答してくれたことに驚きました。参加してくれた子どもたちの意見は素直なものが多く、私が持つべき感謝の気持ちとは何かについて深く考えさせられました。

津田一樹



このようにたくさん子どもたちが集まってくれました。まずは自己紹介から…



まず三回生が、フィリピンとはどのような国か説明をしました。「この国旗の国はどこでしょう？」と質問したところ、国旗を見ただけで、何人もの子どもたちが「フィリピン！」と元気よく答えてくれました。普段私たちが食べているバナナのほとんどがフィリピンからきているということや、自然の豊かさ、フィリピンという国が身近な存在だということを伝えました。



次に四回生が、ゴミ山とストリートチルドレンの現状について説明しました。ゴミ山の説明の中では、子どもたちや六甲教会の方々が協力して集めてくださった靴を、フィリピンの子供たちが嬉しそうに抱えている様子、実際に靴を履いて楽しそうに遊んでいる様子を報告しました。



ストリートチルドレンの説明では、家族がいて住む家があり、毎日ご飯が食べられるという環境は当たり前じゃないんだよ、いつも周りの人に感謝しよう、というメッセージを伝えました。そして最後に、みんなの大切な人へ感謝の気持ちを手紙に書こう！ということで、カードにメッセージを書きました。

文責：津田一樹